

# 学園西町地区 地域連絡会だより



第25号  
発行：小平市役所  
地域振興部  
市民協働・男女  
参画推進課  
電話：042-346-9532  
協力：学園西町会

## 家庭と地域における防犯対策

# 【開催報告】 2回にわたり防犯に関する講座を開催！

## 2月5日開催 地域連絡会（1回目）

去る、令和8年2月5日と3月5日に、第35回、第36回学園西町地区地域連絡会が中央公民館にて開催されました。  
今回は学園東町との合同で行い、講師の方をお呼びし、防災に関する講座を行いました。  
2月5日の地域連絡会では、小平市地域安全課職員で警視庁OBの赤田弘さんをお招きし、「市内の犯罪発生状況とその対策」をテーマに自宅、街頭、子ども高齢者、地域の項目で日頃の防犯対策の意識、犯罪がどのような手口で行われているか、具体的な防犯対策の方法についてお話いただきました。  
また、警視庁の防犯アプリ「デジポリス」の紹介がありました。アプリをインストールし、設定をすることで、国際電話番号から携帯電話等、犯行利用電話番号



2月5日講座の様子

警視庁防犯アプリ「デジポリス」は下の二次元コードからダウンロードできます ↓↓



をブロックする機能や、マイエリアを設定することで警視庁からの不審者情報の受信、防犯ブザー機能、犯罪情報マップ機能等様々な機能の紹介をいただきました。

## 質疑応答での主な質問と回答

（質問、以下（質））

振り込め詐欺防止のために固定電話に取り付ける自動通話録音機は効果があるのか。

（回答、以下（回））

犯人は声を聞かれたくないので録音機能のあるものは効果がある。完璧な防犯対策ではないが、防犯効果は相当あるのだから取り付けていただきたいと思う。

（質問、以下（質））

現在、小平市内で増加、横行している犯罪の傾向は何か。また、その対策について効果があるものは何か。

（回答、以下（回））

子供に対する公然わいせつが発生している。防犯カメラを設置することが最も抑止力として効果が期待できる。

（質問、以下（質））

団体や法人宛になりすまし詐欺メールが頻回に届いており、困っている。迷惑メール設定をしても違うアドレスで送られてくる。

（回答、以下（回））

あまりひどいようであれば小平警察署に相談したほうが良い。最悪の状態にならないよう手立てを教えてください。

## 地域連絡会とは

地域自治を進めるには、地域内の横の連携をより密にして、地域が一つにまとまる必要があります。地域の各団体が、地域に関わるそれぞれの情報を持ち寄り、地域の課題を発見し、その解決に向けて取り組むことが求められます。そのために、地域の意向を踏まえ、地域の様々な団体が集まる場として「地域連絡会」を設け、それぞれの役割についての理解を深め、地域に関わる情報を共有しながら、地域課題についての共通の認識を持つよう努めております。  
地域連絡会は、地域団体以外の方でも、どなたでも参加できます。原則、事前の申込みは必要ありませんので、ご近所の方とお誘いあわせのうえ、ご参加ください。  
（※講習会等を行う場合は、事前に人数の把握が必要となります）

【学園西町会】  
防犯対策として、小平警察署と相談して、防犯見守りカメラを5台設置した。  
また、防犯パトロールを小平市と小平警察署と合同で昨年末に実施した。  
【学園東町自治会】  
防犯パトロールを月4回実施している。児童の下校時間帯に有志の者で行っている。また、自治会内で特殊詐欺注意喚起のチラシを毎月回覧している。

## 連絡事項

# 3月5日開催 地域連絡会（2回目）

## 地域の防犯 犯罪者が嫌う 瞬間ボランティアあふれる安全な地域になるために

3月5日に行われた今年度2回目の地域連絡会では、NPO法人体験型安全教育支援機構代表理事の清永 奈穂さんに、「地域の防犯ー犯罪者が嫌うー瞬間ボランティアあふれる安全な地域になるために」をテーマに、講座をしていただきました。

実際に犯行が行われた現場を、元窃盗犯と共に訪れて行った調査研究について等、フィールドワークに基づいたエピソードもご紹介いただきました。

主な講座の内容は次のとおりです。

○以前は犯罪認知件数は減少傾向であったが、近年は増加傾向である。

その主な要因として「犯罪が進化（特殊詐欺など）」、「防犯力メラを無視する犯罪者」、「町内パトロール減少」が考えられる。

○犯罪者は日常生活のスキマを狙う。主なスキマは地域、心、生活、法、教育等があげられる。

○犯罪者は対象の20m手前の距離から対象を定め始め、5mで最後の一線（決意）を越える。そのため、前後10〜20mを気を付ける必要がある。

○「瞬間ボランティア」という

上品な深入りしない程度（距離感のある）の「おせっかい」（やりとり）をすることで、負担が少なく、かつ町内など全域を巻き込む（全員が瞬間ボランティア）ことで、犯罪など抑止の結果に繋がる。



3月5日講座の様子

### 質疑応答での主な質問と回答

（質） 困っている人や児童に声掛けをするときに不審者と思われなにか心配になる。

（回） 自分は瞬間ボランティアだという気持ちのスイッチに切り替えて自分に勇気を持つようにする。

悪い人と思われようが、今大変そうだから声をかけるといふ勇気づけになるのではないかと。

（質） 子どもにも声掛けする時の注意点は何か。

（回） 近寄りすぎる、頭を撫でる、肩を触る等はやってはいけない行為なので、背を低くして一定の距離を保って声掛けする。その子が拒否するようなら去る。振り返ってまだ大変そうなら#9110（警察相談専用電話）に電話をするとか、自分以外の人に助けを求めて行ってもらおう等の方法がある。



### 学園西町地区地域連絡会 参加団体

- 学園西町会
- 民生委員
- 地域包括支援センター中央センター
- 地域包括支援センター小川ホーム
- 小平市社会福祉協議会
- 市民協働・男女参画推進課（事務局）
- （順不同・敬称略）



〈講師〉  
NPO 法人体験型安全教育支援機構 代表理事 清永 奈穂 さん

安全教育の専門家として長年研究を続け、学校や地域での防犯活動の普及に尽力され、全国で講演や啓蒙活動を展開されています。

著書には、地域防犯や安全教育に役立つ実践的な内容が多数含まれています。また、テレビ番組の監修を通じて、家庭や地域で取り組む防犯の大切さを広く発信されています。